

Close-up 第39回

クローズアップインタビュー

Interview

Jトラスト

—西京銀行と業務提携、 事業者金融機能強化図る

中小企業、特に零細事業者を取り巻く環境は厳しい。業績の低迷に加え、資金繰りを支えてきた事業者金融業者も貸金業法の改正、過払い問題などで、十分に機能しているとは言えない状況だ。この度中小企業向け金融事業を手がけるJトラストと西京銀行は業務提携を結び、事業者金融機能を拡充する。グループ代表の藤澤氏にその展望を聞いた。

(聞き手/東京支社情報部長 藤森 徹)

—Jトラストと西京銀行が提携する事業者ローンビジネスを拡大とは？

Jトラストグループは、事業者金融、消費者金融、クレジット、保証業務、サービサーほか不動産事業、システム開発まで、様々な機能をもった企業群がありますが、今回西京銀行と提携して、「ミドルリスクマーケット」を対象とした、事業者ローンを拡充します。具体的にはロプロなどで蓄積した審査、開拓のノウハウを生かし、当グループが「保証業務」を担当し、西京銀行が「資金調達、融資」を行うものです。

—ミドルリスクマーケットは難しいのでは。

現在まで日本の金融業界で「ミドルリスクマーケット」に対する融資ビジネスは上手く行っていません。例えば、ロプロ、SFCG、日本振興銀行など、それを目指したほとんどが失敗してしまっています。これは貸金業法改正で、リスクに応じた金利設定になっていないことが原因となっていますし、過払い金問題もある。それに従来のビジネスモデルはリスクを保証人に転化し、実際は個人に落としこんでいったのも良くなかった。

Jトラスト代表・藤澤信義氏



—ではどういった考えで参入するのでしょうか？

このマーケットはローリスク、ローリターンが基本の銀行が踏み込めない領域ですので、我々が参入するチャンスは充分にあります。一言で「ミドルリスク」といっても比較的风险の低い層への展開を考えています。言い換えれば、本当に貸せない層は約半分で、残りの層へちゃんと貸していこうということです。現在ハイリスク層と見られる市場のほうが、失業率も高いし、景気も悪い。当然カネが回らないところも多い。事業がうまくいかない、回収がままならない、破産が多い。こういった層に位置する事業者は、儲ける機会があるのに、資金がなくて困っているのが現状だと見えています。我々は過払いリスクの無くなったロプロが所有する数万件の顧客基盤や、ヒストリカルデータも持っています。これらの資源を生かして新しい貸し付けを行い、銀行では調達できなかった事業者へ資金を提供する。これが日本を元気にすることにつながればと考えています。

—具体的にはどのような商品ですか。

首都圏や大都市を中心に、金利は8-10%程度で初年度の融資残高100億円を目標にしています。西京銀行では5月9日から事業者ローンの取扱いを開始しました。

会社概要

Jトラスト(株)(証券コード:8508)
 企業コード:580749601
 東京都港区虎ノ門1-7-12、電話03-4330-9100
 藤澤信義代表
 事業内容:ホールディング業務、債権買取業務
<http://www.jt-corp.co.jp/>